

# 移住者座談会

## 宿屋揖斐川

子育て、仕事、おつきあい…。新天地で暮らすとなると、気がかりなことがいっぱい。

ひと足お先に移住を決めた先輩方にお聞きしました。

こいけたつや  
小池 達也さん [30代 東京都出身]



妻と娘の4人家族。谷汲在住。  
東海若手起業塾(名古屋市)事務局長。  
谷汲で空き家を活用したコワーキング  
スペース「畠オフィス」を設立。代表理事。

なみき れいな  
並木 恵奈さん [30代 東京都出身]



夫と娘の3人家族。谷汲在住。  
趣味はスキー。  
園舎のない「いび森のようちえん  
こだぬき」のスタッフ、畠オフィス  
理事もしている。

しみず みお  
清水 未緒さん [30代 大阪府出身]



夫と娘の2人の4人家族。春日在住。  
樂健法と樂健寺酵母パン、舞を主軸に、  
心と身体を繋ぐもの・ことをライフワーク  
としている。  
空き家をDIYで直して暮らす。

やすい まどか  
保井 円さん [50代 フランスから帰国]



「大和神社」神主。20年以上フランスで教師を勤め、神社を継ぐため、帰国。上南方に在住。  
神社に隣接する築150年以上の古民家を外国人向けのゲストハウス『宿屋揖斐川』として改修。  
フランスを中心に世界から客を迎えていた。2019年12月より揖斐川町地域づくりアドバイザー

### どんな子どもに育てたい?

その答えは、揖斐川町にあります。

並木さん 夫の転勤で岐阜県に移住しました。はじめは大垣市で暮らしていましたが、大垣は田んぼばかりで木がない。農道でも車が走っていて、歩くのに適したところがないと感じていました。最初に揖斐川町を訪れたのは、揖斐川町の酒屋にお酒を買いかけてきました。揖斐川町に近づくにつれ、スキー旅行に来た感じがしてワクワクしました。その後、揖斐川ワンダーピクニック(P3のイベント)に来て、すごくオシャレなフェスで、作り上げている町の人のパワーがすごいなって思いました。

また、町中にも森があって木陰があり、起伏の変化もあるのが良いですよね。妊娠した際には、揖斐川町の産婦人科の産科医が麻酔医でもあり無痛分娩を無料でやっていることを知り、出産でもお世話になりました。産後、町主導で森のようちえんが立ち上がりと聞いて魅力を感じ、スタッフになりたい、と、移住を決めました。

保井さん 無痛分娩は、フランスでは当たり前だよ。うちのカミさんもそうだった。小池さん 揖斐川町には昔ながらの造り酒屋が2軒もあったり、豆腐屋があたり。水がきれいな証拠ですね。

並木さん 移住してみると、本当に水がおいしい。空気もよくて、広告看板が無い。それだけでもベースの幸福度があるというか…幸福の要素が違うなど感じます。都会では、常に「買え買え」という情報・広告に刺激され、いろいろなものが買わされていたのだな、ということにあらためて気づかされました。

保井さん 大垣では「タケノコもう掘ったか?」という日常会話が通じません。

揖斐川町は、中心部は古い町並みの雰囲気があって、バックに山があり、

田畠もあって、川で仕切られている。つまりは『まんが日本昔話』にでてくる

風景が残っているんですよ。『となりのトトロ』の世界もあるし、桃源郷でもあります。また、住んでいる方の文化

レベルが高いとも感じます。ジェロム・レ・バンナさん(日本でもK1などで活躍したフランスの格闘家)が滞在した際に、「ココこそ日本の原風景。サムライが歩いているのが見える。移住したい」とまで言っていました。

小池さん 僕は東京都出身で、通勤電車の乗車率が300%を超えるような生活に限界を感じて、田舎か海外に行こうと考えていました。現在の妻の実家のある谷汲(揖斐川町)をはじめて訪れたとき、川で200~300匹のホタルを見て、ものすごく感動したんです。移住は郡上や高山も候補だったん



ですが、ココだと岐阜や大垣まで40分で行ける。名古屋も遠くない。

今はフリーランスですが、ここなら、もし通勤が必要になってしま田舎暮らしをしながら都会でも働けるな、と。

また、僕は楽器を演奏するのが好きで、子どもと毎晩歌ってるんです。隣の家と離れてるので、「近所迷惑だから静かにしなさい」と言われるのが良いです。

保井さん 地域に溶け込む苦労はありましたか?

小池さん うちの近所は勤め人が多くて、丁度いいくらいの距離感。苦労はありませんでした。移住後しばらくはそっと見守ってくれていたようですが、最近、熱心なお誘いがあって消防団に入ったところです。これは大変だろうけど、地域のお役に立てるならいいかと思ってやるしかない(苦笑)。

清水さん 私は大阪で生まれ、父の転勤で12回の引っ越しをしました。大学は北海道で、そこでアイヌの方に出会って衝撃を受けました。都会ではお金ありきで生活している大人ばかり見て育ったので、自然とともに自由に暮らしている方たちを見て「こんな生き方があるんだ」と。

就職後は三重県や愛知県で働きましたが、仕事に忙殺されながら、アイヌの方が忘れらず…。その頃は出産予定日まで仕事をしていて! 2人の目の



出産を機に生活を変えようと仕事を辞め、移住を決意しました。父の実家は南三陸なのですが、東日本大震災でたくさんの方が亡くなりました。だから、万が一の時に自分達で生きられる場所を探して、水のきれいな山際の春日(揖斐川町)に決めました。

保井さん いざとなったら、自給自足で豊かに暮らせる環境の良い町です。

清水さん 移住してすぐ地域の方に「盆踊りがあるよ」と誘われました。

盆踊りは出店があって派手な装飾がされているものだと思っていたが、開始時間に神社に行くと3人しかおらず、あるいはやぐらと提灯だけ。あれ? と思っていたら、その3人がなんなく踊りはじめて…。そのうち静かに人が増えて、最後には40人ほどの踊りの輪になりました。

「これが本物の盆踊りなんだ!」と涙が込み上げてきました。太鼓踊りもそうですが、この地域の方たちは、本当にご先祖さまや山の神様を大切にしています。日本人のこころが残っている地域だと感じて、いつも感動しています。この地域の方たちから感じるのは、「生かされている」のではなく、「自然と共に生きている」という感覚です。町の暮らしで感じていた漠然とした不安は、ココに来てから無くなりました。それは自力で生きる力を少しづつ身につけています。年長組の長女も焚きつけや薪拾いも含めて、薪ストーブを自分でつけられるようになりました。生きる根源を学び知ることで、親子ともに自己肯定感が上がったように思います。

### 何でも買える便利さよりも 自分たちで生み出す「自由」は楽しい!

保井さん 何でも買って間に合わせようとする方には、合わない地域だと思いますが、求めているものが高い、深い人の価値観に揖斐川町は応えられる場所です。古きよき日本を守る町として、伝統文化を守り続けていきたいですね。

小池さん ただ、残念ながら、引き継ぐべき世代がいなくなってきた。お金で買えない心の豊かさが揖斐川町にはあって、我々移住してきたものは、それを求めています。

清水さん 染織り、炭焼き、郷土料理、薬草文化…後継者がおらず、危機的な状況です。残さなくて、生きていけないことはないし、困らない。けど、知っていると知らないとのでは、日々の生活への向き合い方が全く異なると感じています。

保井さん 縄文時代から残っている文化まであるんですよ。10年後に、この知恵や文化を残すことができなかったら、ただの田舎になってしまいます。僕も帰国して3年のうちに、素晴らしい祭りが一つ後継者不足でなくなり、ショックでした。

清水さん そのまま守り伝えていくこと、時代に合わせて変化させていくこと、そのバランスが大切だと感じています。

小池さん 岐阜県は、キャンプやBBQの実施人口が日本一。僕は家の庭で

自然を感じながら食事をするのが好きで、すごく贅沢を感じます。

清水さん うちは、家に帰ったら、玄関の前に野菜が置いてあつたりする(笑)。

そういうえば、ご近所さんのおかげであまり買い物に行かなくなりました。

保井さん 不便なところ、困っているところは?

小池さん そんなに困っていないですね。

並木さん 多少ありますけど、「まあいかっ」と思ってしまう。あ! でも、お酒を呑める所がないです。車生活だし。

小池さん 煙オフィスでバーをやりましょう。

並木さん いいね! そうしましょう! あとは、一流シェフを呼んで、揖斐川町の食材を使って料理してもらうとかは? 年1回くらい贅沢なコースが食べられるといいです。

保井さん それはいいね! 揖斐川町の食材でぜひ。フランスだと、日曜はどの家族も、森の中を散歩してから、ゆっくりご飯を食べる。日本ではそんな豊かな暮らしに気づかないですね。

### 同じ町なのに景色が違う。文化が違う。

小池さん 揖斐川町は地域によってホント文化が違いますよね。

並木さん 古い町並みが残る旧城下町のエリアから、田園風景と華厳寺という観光地のある谷汲、本当に古い山中の文化が残っている春日、北部の久瀬・藤橋・坂内、どこも景色が全然違うので楽しいです。

保井さん フランス人観光客は、「揖斐川町は、3泊ぐらいじゃとても足りない、1週間は滞在したい」と誰もが言います。けど、昔から揖斐川町で暮らしている方は、滞在型の観光地とらえていません。

並木さん 私自身、来てみたら居心地がよく、滞在型観光の延長で住んじゃったみたいなもんです(笑)。

### 夫や子どもの笑顔を見れば

「この町でよかった」と実感できます。

保井さん 旦那さんはどうですか。

清水さん 夫は、スキー場、キャンプ場をかけもちしていましたが、今は町外まで働きに出ています。

並木さん うちの夫も町外へ通勤していますが、畠をはじめたら時間が欲しい、狩猟の免許も取りたい、と言っていて、ゆくゆくは地域でなにか仕事ができたら、と思っているようです。

清水さん 本当は、地域の資源を活かした仕事が出来たらいいなと考えています。生活にかかるお金が都会よりも少ないので、必死に稼がなくとも、山では暮らしています。心と体とバランスよく生きることが目標です。

「こういうところに来たかった」と娘が言ってくれて、移住して本当に良かったと思っています。今は子どもの時間もたっぷりとれますし、家の裏はすぐ山、正面はすぐ川という環境で、遊び場に事欠きません。常にそんな環境で遊んで育つ子どもたちの身体能力はびっくりするほど高いです。危機管理能力も高い。本当に自然に育てられていますね。

並木さん うちの娘も、森のようちえんで毎日どんこ。風邪もひかないし、3歳なのに足腰の筋肉がすごいんです(笑)。

小池さん 僕の親は東京にいて、一生住めるかはわからないけど、子育てに最適な地だからこそ、今はここで暮らしたいです。

保井さん お子さんたちが大人になった時、「揖斐川がふるさと」と思ってもらえた、うれしいです。本日はありがとうございました。

### 移住歴15年目 先輩の生活は?!

県内から移住して15年目。3人の子育てをしながら、田舎暮らしならではの魅力を満喫中。揖斐川町春日の可能性を感じるとともに、古老の方々の知恵・技・暮らしに学ぶ毎日です。

